基礎老化研究 44（1）；1－3, 2020

【名誉会員寄稿文】

事務局のお仕事

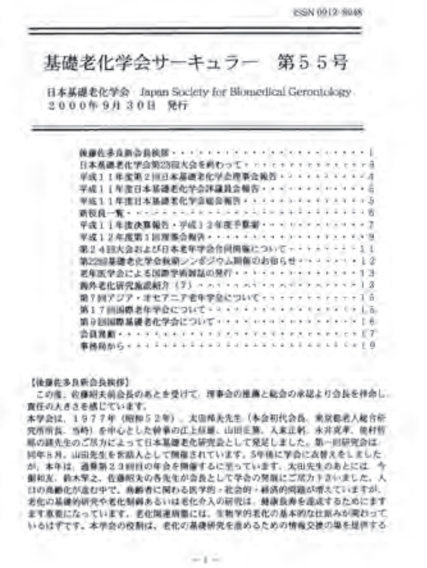
新海　正

学会の運営を担当し，その目的実現のために実質的な作業をおこなう部署を事務局といいます．その仕事の内容は多種多様にわたりますが，皆さんもご存じのように，あまり表立って目にとまるような動きすることはありません．どちらかというと縁の下で学会を支えているといった方がよいかもしれません．

日本基礎老化学会は老化の基礎的研究の振興を図ることを目的として創設されました．その目的とは１）学術会議の開催２）機関誌，図書等の刊行３）その他本会の目的の達成に適当と認める事業をおこなうことであると学会会則の一番始めに明記されています．これらの仕事を成し遂げるためには，中心となる役員（学会長あるいは理事長）が重要ですが，それと同時に，それをサポートする会員も必要となってきます．そのため，基礎老化学会では学会関係のいろいろな業務を円滑に進めるために，理事会により承認を受けた施設に事務局が設置されることになっているのです．

今から 20 年ほど前，わたくしは東京都老人総合研究所（現在の東京都健康長寿医療センター研究所）に籍を置いていましたが，そこに基礎老化学会の事務局がありました．その時，新しく学会会長になられた後藤佐多良先生より事務局（庶務幹事:現在は庶務理事でしょうか）を引き受けてくれないかとのご勧誘を受け，あまり深くも考えず承諾したのが事の始まりです．それから事務局関連の仕事を延々と続けて，昨年 65 歳に到達しました．その間，自分自身が学会の縁の下の力持ち的存在になれたかどうかは，はなはだ疑問ですが．

基礎老化学会では学会役員の選出は理事の選挙では連記無記名投票でおこなってきました．また，評議員では国内を５つに区分し各区より選びました（第１区；北海道，東北地方と北関東　第２区；東京を含む南関東　第３区;中部地方　第４区;関西地方　第５区;中国，四国，九州，沖縄地方，その他海外）．だいぶ変則的な区分けですが，学会員の数に地域的な偏りがあるため，当時はこのようにして選挙をおこなっていたのです．これらの選挙業務には幹事が当たることになっていましたので，事務局として選挙案内ならびに立候補受付，投票用紙の作成，配布，回収，開票等をおこない，その選挙結果をサーキュラーに載せ，それを通じてすべての学会員に報告しました．わたくしが事務局に在任しているあいだも選挙は何回もおこなわれました．いくつかの他学会では選挙に関して重大なクレームが生じ，やり直し等があったと聞きましたが，基礎老化学会では別段これといった問題もおこらず毎回無事に終了することができました．これも役員はじめ会員の皆様の一致団結した結果によるものと確信しています．


ISSN 0912-8048

基礎老化学会サーキュラー　第５５号

日本基礎老化学会　Japan Society for Biomedical Gerontology
２０００年９月３０日　発行

後藤佐多良新会長挨拶・・・・・1
日本基礎老化学会第23回大会を終わって・・・・・3
平成１１年度第２回日本基礎老化学会理事会報告・・・・・4
平成１１年度日本基礎老化学会評議員会報告・・・・・5
平成１１年度日本基礎老化学会総会報告・・・・・5
新役員一覧・・・・・6
平成１１年度決算報告・平成１２年度予算案・・・・・7
平成１２年度第１回理事会報告・・・・・9
第２４回大会および日本老年学会合同開催について・・・・・11
第22回基礎老化学会秋期シンポジウム開催のお知らせ・・・・・12
老年医学会による国際学術雑誌の発行・・・・・13
海外老化研究施設紹介（7）・・・・・13
第７回アジア・オセアニア老年学会について・・・・・15
第１７回国際老年学会について・・・・・15
第９回国際基礎老化学会について・・・・・16
会員異動・・・・・17
事務局から・・・・・19

【後藤佐多良新会長挨拶】
この度，佐藤昭夫前会長のあとを受けて，理事会の推薦と総会の承認より会長を拝命し，責任の大きさを感じています。
本学会は，１９７７年（昭和５２年），太田邦夫先生（本会初代会長，東京都老人総合研究所所長，当時）を中心とした幹事の江上信雄，山田正篤，入来正躬，永井克孝，他村哲郎の諸先生のご尽力によって日本基礎老化研究会として発足しました。第一回研究会は同年８月，山田先生を世話人として開催されています。5年後に学会に衣替えをしましたが，本年は，通算第２３回目の年会を開催するに至っています。太田先生のあとには，今堀和友，鈴木孚之，佐藤昭夫の各先生が会長として学会の発展にご尽力下さいました。人口の高齢化が進む中で，高齢者に関わる医学的・社会的・経済的問題が増えていますが，老化の基礎的研究や老化制御あるいは老化介入の研究は，健康長寿を達成するためにますます重要になっています。老化関連病態には，生物学的老化の基本的な仕組みが関わっているはずです。本学会の役割は，老化の基礎研究を進めるための情報交換の場を提供する

－1－

基礎老化学会サーキュラー 第 55 号

選出された理事，評議員ならびに全会員の意見をまとめるために，会議（理事会，評議員会，総会）が設けられています．これらの会議の運営のために日時や場所，審議内容などの議題を事前に関係者に連絡し，会議終了後は議事録を作成して全ての会員に報告しました．当時は理事会が非常に活発で，様々な意見が交わされることが多く，時には結論が得られず次回の理事会に持ち越すようなこともありました．

ちょうどこの頃はインターネットが普及しつつある時期でしたので，会員との情報伝達の迅速化をはかるために，サーキュラーに「メールアドレスをお持ちの皆様は，アドレスを下記宛に E-mail でお送りくださいますよう，ご協力よろしくお願い申し上げます．」というようなお願いをしたことを覚えています．それまではすべて郵便またはファックスで処理していましたので，事務局にとってもインターネットを活用することにより，だいぶ

連絡先：新海　正
E-mail：shinkait@shibaura-it.ac.jp

労力の軽減化を図ることができ，新しい文明の利器のありがたみを感じたものです．

基礎老化学会の学術発表の場は大会とシンポジウムならびに機関雑誌です．雑誌は編集委員会に全てお任せしましたが，大会とシンポジウムは両方とも主催する会員が基軸となって運営管理をしました．学会事務局としては多方面でこれらを支援してきましたが，それと同時に会場入口に事務局の窓口を設け，会場案内や学会費納入の受付をするとともに，一般参加者や企業からの参加者に対し学会への入会勧誘や学会雑誌「基礎老化研究」の販売をおこないました． ある大会で窓口業務をしていた時のこと，偶然高校時代の知人が顔を見せ，昔話に花を咲かせた事もありました．彼とはその後共同研究をおこなうことになり，何か不思議な縁を感じました．

発表会場：ポスター会場で海外の講演者と記念写真

大会やシンポジウムでは熱い講演が終わると夕刻には懇親会が開かれます．ここが主催者の腕の見せ所で，地域のうまいもんや秘蔵の酒が並べられ，それらを楽しむと同時に研究発表会場ではやり尽くせなかった議論に話が弾む様子がしばしば見られました．また，日本老年学会の理事会や他の会議に参加し，その運営の一翼を担うこともありました．

懇親会：ビンゴゲームに興じる人々

老化研究の国際交流の一環として，国内で国際老年学会やアジア・オセアニア国際学会が開催されましたが，これらの学会には学会事務局が直接関与することはありませんでした．しかし，基礎老化学会員の皆様とともに数多くのセッションに参加して，それらの国際会議を盛り上げたことを記憶しています．一方，韓国基礎老化学会との交流がスタートし，事務局として日韓合同大会の運営に参画することになりました．日韓の研究者の間で様々な意見がインターネットを通じて取り交わされ，双方の研究者を交えた大会を交互に開催するなど，積極的に老化研究を発展させようという話がまとまり，基礎老化学会の国際化が一層進むことになりました．なお，これは現在も続いています．また，当時の基礎老化学会の理事会では，今後は若手中心に研究者を支援する大会にし，将来的には日韓別々の学会を一つにまとめた「基礎老化学会」にしたいなどという独創的な意見もあらわれました．ところで，このような考えは現在も継続中なのでしょうか？

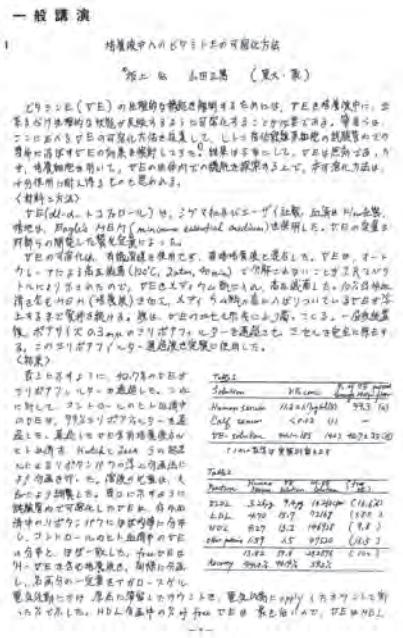
国際学会雑誌

平常時の学会事務局の業務も盛りだくさんでした．新聞社や出版社からの学会に対する様々な依頼（執筆や雑誌の送付など），企業からの取材協力，国内会議・開催意向調査票作成，大会スケジュールの情報提供，会場の使用許可願い等々多岐にわたっていましたので，その都度適切に処理していきましたが，この作業は結構大変でした．また，会員の会費納入督促や賛助会員への広告掲載案内，寄付の受付など学会の財政面の管理や入退会者の統括も業務としておこないました．

ところで，事務業務の一部を委託していた日本学会事務センターが 2004 年に破産し，預けてあった基礎老化学会の資産が返却不能となってしまいました．さいわいなことにその金額はそれほど多くはなかったので，学会運営にはたいした影響はありませんでした．しかし，大規模な学会では損失額が膨大でしたので，学会事務センターと委託契約をしていた学会が団結して「日本学会事務センター破産被害学会連絡協議会」を設立して対抗しましたが，結局そのままになってしまったようです．これを機に基礎老化学会は学会事務センターに委託してあった業務は全て事務局でおこなうことにし，無駄を極力省くようにしましたので，経費節減の効果も上がったのではないかと思います．

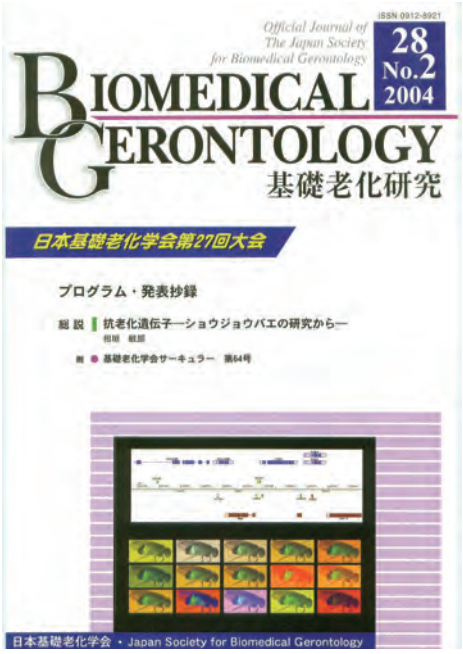
皆さんは学会誌「基礎老化研究」の表紙に変遷があったことをご存じでしょうか？表紙は学会の一端を表現していますので，その時代の世界環境に適合した様式になっていることが大切だと思います．今後，時世の変化を感じましたら，ぜひそれに似合った新しい表紙を考案してください．ちなみに，第１回大会の講演要旨集を見ていたところ，図表も含めてすべて手書きのものが数多く見受けられました．残念ながら当時はまだ学生でしたので，実際にその現場を見ていませんが，手書きという

第１回大会講演集表紙



第１回大会講演集

第 23 回大会講演集表紙



第 27 回大会講演集表紙

ことは文章を１カ所でも書き損じると，全て書き直しということになります．神経を集中させ一心不乱に原稿を書き上げた研究者の心意気に敬意を表します．

いろいろ思いつくままに事務局のお仕事について書いてみました．自分でもよく続いたものだと感心しています．きっとこの仕事が性に合っていたからなのでしょう．しかし，自分一人では何もできなかったこともわかっています．後藤佐多良先生，丸山直記先生からの格別のご厚意，また，学会の事務業務を率先しておこない．わたくしの仕事量を大幅に縮小してくれた山谷事務局員のお力添え，さらには，いろいろな所でいろいろなご援助をしてくれた日本基礎老化学会の皆様に対し心よりお礼申し上げます．